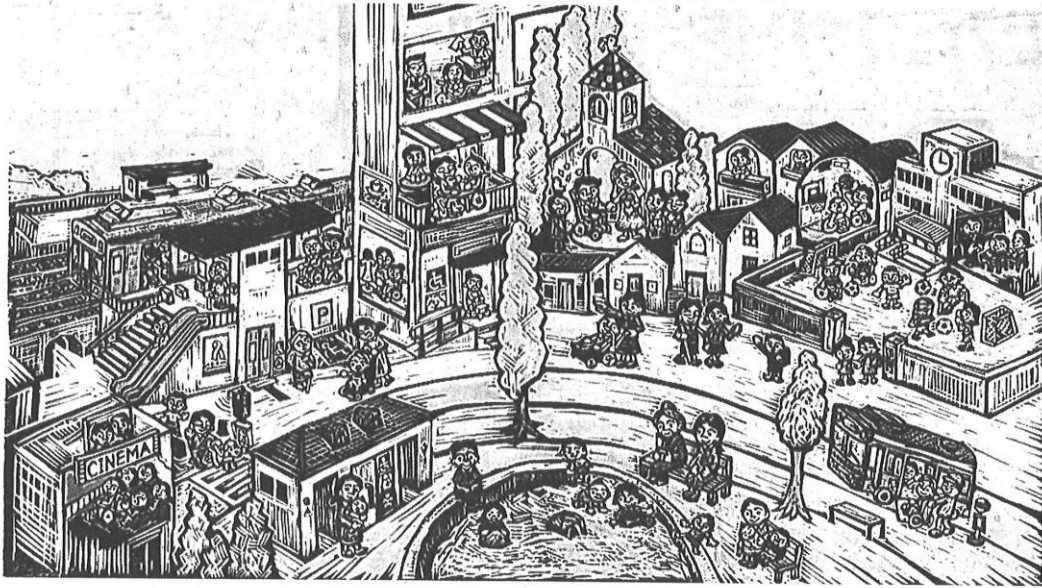


「えほん 障害者権利条約」に収められた里圭さんの版画。条約の理念が実現し、障害者に限らず、老若男女すべての人に優しい社会が実現することをイメージした—汐文社提供



障害者権利条約の絵本

「学校図書にしたい」

国連障害者権利条約の理念を絵本で紹介した「えほん 障害者権利条約」(汐文社、1620円)が、反響を呼んでいる。5月に発売され、すでに4刷まで増刷。全国の自治体からも「学校図書にしたい」と購入申し込みが続いている。自らも全盲の視覚障害者で作者の藤井克徳さん(66)は「障害者同士で『素晴らしい条約だ』と喜ぶだけでなく、健常者にとって条約の意義が伝われば」と願う。

【天彰子】

理念と意義が分かりやすく

全国自治体から反響



藤井克徳さん

条約は2002年7月から国連の特別委員会で策定審議が始まり、06年12月の第61回総会で採択。翌07年3月に中米ジャマイカが最初に批准した。日本の批准は141番目の14年1月だった。

藤井さんは国連本部がある米ニューヨーク

まで何度も足を運び、特別委の審議を傍聴した。06年8月に特別委で条約が仮採択された瞬間は、今もありありと覚えている。「拍手、口笛、歓声で議場の空気が震えた。その光景は見えなくても圧倒された」

国内では当時、06年全面施行の障害者自立

支援法で、障害が重く支援が必要な人ほど福祉サービスの利用者負担額が増える「応益負担」が始まり、障害者らが強く反発していた。「障害者自ら策定過程に参加した条約と、日本の実情に強烈

な差を覚えた」と藤井さん。だからこそ、条約を広く知ってもらう必要性を痛感したという。

福祉分野の著作が数多い藤井さんだが、絵本を手がけたのは初めて。絵は「みんなが笑

顔で集うイメージで」などと、知人の里圭さんに相談し制作してもらった。難しくなりがちな条約の理念や意義を分かりやすく紹介している。

都内の自治体のほか全国から購入申し込みが寄せられ、同社の他の絵本に比べ6〜7倍の売れ行きという。近く5刷も予定している。「全然知らなかった障害者のことがよく分かった」「孫に贈りたい」など、読者の反響も絶えない。「条約を順守して障害者が暮らしやすい社会を築けば、子供や高齢者など誰もが生きやすい世の中になるはず。その思いが、絵本にしたことで多くの人々に届いた」と藤井さんは語る。

19日には新宿区内で朗読会も予定されているが、評判を呼びすでに定員(100人)いっぱい申し込みがあった。藤井さんは「朗読会を全国に広げていければ」と話している。

国連障害者権利条約 不十分な福祉などにより、障害者が社会生活を送る困難さ(障壁)の解消を目指すし、「(健常者)他の者と平等」に、障害者の地域生活や意思決定、教育、労働、政治参加、移動の自由などを保障し、批准国にそのための立法・行政措置を求めている。今年8月末現在で157カ国・地域が批准。

ゆず果汁 かぼす・他茶液 柑橘の味アスキー (0088) 21-1155